

平成30年度 生産性・品質向上のためのIT活用の現状と
ものづくりマイスターの活用に係る好事例発表及び意見交換会

1. 日時 平成31年 2月 6日(水) 15:00~17:00

2. 会場 前橋テルサ 8階 けやきの間

3. 参加者

基調講演(コーディネーター) 群馬産業技術センター
先端ものづくり係長 黒岩 広樹氏

意見交換(パネリスト) アサヒライズ 株式会社
代表取締役社長 宇井 正典氏

嶺工機 株式会社
代表取締役 福嶋 康行氏

株式会社 浦和製作所
代表取締役社長 森谷 行雄氏

聴講者 31社 33名 6団体 15名 計48名

4. 基調講演

演題「中小企業におけるIT活用の現状」
群馬産業技術センター先端ものづくり係長 黒岩 広樹氏

黒岩先生の自己紹介。先端ものづくり係長として県内中小企業のIoT推進に従事。県内中小企業のIT化の現状について、昨年12月6日に「NHKほっとぐんま640」で取り上げられたテレビ放映の内容紹介や具体的事例を示しながらの報告があった。共同研究、技術相談の件数は徐々に増加しているが、引き続き、セミナー開催などに加え、企業への個別訪問など地道な活動を実施していく等の説明があった。

県内企業のIT活用の現状は、まだまだ途についた状況であり、関心は高いものの

進みが遅い理由、問題点は「人」にあるのでは、とのこと。IT、IoT化を推進していく人の決意、気持ちが大事。また、それを活用する現場の人の理解と協力も大事。結局、IT、IoT化の推進は人の問題で、大事なものは熱意と諦めないことです。



5. 意見交換（パネルディスカッション）

次のような意見がありました。

- 現状でもOJT、社員教育は難しい状況なのに、IT、IoT化をどのように進めれば良いのか考えると心配である。
- IT、IoT化の推進者は、経営者である社長です。現場のキーマンの理解も大事。
- 我が社のように図面や工程表の手書きが多く、職人中心の状況ではどのようにIT、IoT化を進めればよいのか分からない。
- まずはデジタル化できるところから始めてはどうか。
- 工作機械に繋がっていて、加工条件等のデータはとれているが、うまく活用できていない。専任の社員が1名いるが、現場の理解不足もあり、活用が進んでいない状況である。
- これからが楽しみです。システム会社にやらせると自社の人材は育ちません。



6. 全体総括（コーディネーターまとめ等）

古い工作機械を最新の物に更新すれば、生産性や経済面で効果が出るのは事実だが、厳しい競争の中、10年後もその傾向で良いのか？他社が地道にIT化してきた場合の10年後はどうなっているだろうか？。IT、IoT化にはノウハウの流失、生産の模倣などセキュリティ上の問題があり、慎重に進めることが欠かせないが、永い目で見ると、人の意識の問題になります。